

優秀賞

かりこめ てる こ

刈込 照子

「故郷の青春」

泳いでも渡れそうな小島。漁村で育った。

二十歳の頃、どの家々も海に多少とも関係のある生活。

私の家はサラリーマン。肌を突き刺す寒さ。

真夏でも頬っ被りして漁に出る勇姿には男の意気を感じた。

大漁時はめったに食べられない鮑、常節を無造作に分けてくれた。

いつも海の香のする男。

近づいて来るとすぐ分かる海の男。

砂浜に腰を下ろし潮の満ち引きを眺めていた夕暮。

波が引く時、僅かに残る忘れ潮。

そんな穏やかな日々の続いた故郷の恋でした。

(千葉県長生郡長生村 / 72 歳 / 女性)